

沖縄県宮古島市狩俣地区

自治会からスタートした 新しい働き方のご紹介

令和5年8月

労働者協同組合 かりまた共働組合

沖縄県宮古島市狩俣地区の紹介

- 宮古島市の北端に位置する三方を豊かな海に囲まれた212世帯・住民460人の少子高齢化の過疎集落。



「自治会創立120周年」2020年4月、自治会の執行部が40代に若返り、持続可能な地域づくりを目指し狩俣版SDG s 新規事業計画書を作成、『つなぐ心』を合言葉に『幼・老・青・般』の優先順位で活動を展開中。

『狩俣版SDGs』の5つのテーマ



狩俣まるごと学びの場に



低炭素社会を目指す



小さな幸せをふやそう



豊かな海を次世代へつなぐ



餅屋システムで経済循環

かりまた

「狩俣版 SDGs」 → 目標設定 2025年3月

私たちがこれからやりたいこと

空き家のリフォーム
病院の誘致で地域活性化

みんなで遊べる公園をつくり
イベントをたくさんしたい

ハイビスカスで花見
打ち上げ花火大会
餅つき大会がしたい

保育園・学童をつくる
歴史資料館がほしい
若い人を増やしたい
住む場所を作りたい

課題解決型エコハウスで
新しく住む場所を作りたい
EV車に乗りたい
農業を頑張りたい



**Q1・なぜ自治会から
協同労働なのか？**

自治会の活動において
公益性・平等性に疑問
が生じ、継続性に不安

自治会に代わる新しい
組織の必要性 ➡ NPO?

幼稚園・高齢者へのお弁当配食サービス

①お弁当代1個300円×5=2,500円×20日→50,000円

②厨房使用 1,000×20=20,000円 ③材料費1,000×20=20,000円 ④人件費1名1日2時間×20日=40,000円

3万/月×12ヵ月=-36万(年間赤字)

高校生・高齢者への通学・通院サポート(EV)

①会費5,000円×5=2,5000円×10ヵ月→250,000円+50,000円(通院)=30万円

②充電 12万円 ③リース費59,000×12≒70万円 ④保険料・車検代・諸経費 48万円 ≒130万円

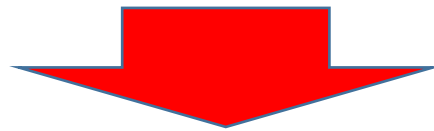
≒100万(年間赤字)

収益性（特に赤字）を伴う事業
において、自治会とは別団体
（法人？）の立ち上げを検討す
るようになるが、なかなか決まら
ない中…、絶妙なタイミングで
ワーカーズコープ（協同労働）
という新しい働き方に出会う！

労働者協同組合：協同労働との出会い

街づくりを仕事にする新しい働き方。

働く人たちが出資して組合員となり、組合員一人ひとりの意見を反映させながら運営し、ともに働く



狩俣に



ピタリ！

2021年

- 11月3日 第1回学習会
- 11月29日 事業計画・予算づくりの検討

2022年

- 6月18日 ワーカーズコープ連合会総会参加
- 11月7日 かりまた共働組合創立総会
- 12月9日 法人登記(那覇地方法務局)

2023年

- 2月 労働者協同組合法周知フォーラム参加
- 6月 第1期 定期総会
- 6月 ワーカーズコープ連合会へ正式加盟

かりまた共働組合の紹介＊VTR

かりまた共働組合の業務分担 ➡ チーム制を導入

2023.7.7 時点 組合員数 8名 監事1名

むすびや（2名）・いんぱり（3名）・ばぎだま（3名）

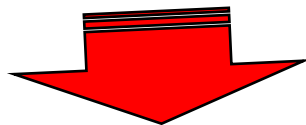
- ▶ 「むすびや」チーム ＊おにぎり・惣菜・地域食堂
- ▶ 狩俣幼稚園へのお弁当配食 高齢者へのお弁当配達など
自治会行事（海神祭・敬老会）などのオードブル
- ▶ 「いんぱり」チーム ＊海と畑を中心とした事業 ＊野草
- ▶ モズク・魚の加工販売（地元特産品の6次産業化）
- ▶ いんぱり＝地元の言葉で「いん＝海」、「ぱり＝畑」
- ▶ 「ばぎだま」チーム ＊EV関連事業・餅屋システム運営管理
- ▶ キャンプなどのイベント企画・運営 ・事務的管理業務
- ▶ ばぎだま＝地元の言葉で「分け合い」、「支え合い」

ここで
地元のケーブルテレビ局で
放送されたニュース映像を
ご覧ください（6分29秒）

なお、全国6例目の紹介は2022年11月7日時点
であり、法人登記時点で**11例目**になります。

「餅屋システム」のご紹介

「餅は餅屋」その道のプロがいるのなら、任せてしまった方がいいというたとえ。昔は餅は自分の所で作るものとされていた



協同労働で『地域の困りごと』を仕事にする
『地域の人材・素材を最大限活用』

餅屋システムで地域内経済の循環を推進！

住み続けられる地区へ 協同労働

雇われるのではなく、地域や社会に必要な仕事を自ら作り、自ら働く。「協同労働」と呼ばれる働き方に法人格を与える労働者協同組合法が10月に施行されました。SDGs（持続可能な開発目標）が目指す課題解決や働き方に通じる動きとして注目されています。

（編集委員・沢路毅彦）



住民から人気のある魚の漁獲県宮古島市

魚の直売・弁当宅配：始めは自治会で

「魚の販売をこれから始める。捨てられたり無料で配られたりしている。少しでもお金をしようと、狩猟・自治会の役員が協力して直売の場を作った。入居者が販路を始めた。今食を始める仲間さん（約45歳）まで電力会社勤務、島外でも働いた。地元へ戻り2020年から、活動をひきかかっている。

自治会は今年で120周年を迎え、少子高齢化が止まらない。189年が500人近くいた地区の住民は現在約460人。

若者が住み続けられる地域にしよと義隆さんたちがまず取り組んだのが、幼稚園の「居た。入居者が宮古島市の基準を下回り休職状態だ。狩猟協同組合地区外労働者や保護者に通わせている保護者と話し合いを重ね、21年度に再開しようとした。

「お弁当の準備をする。保蔵者か、お弁当のサーブがはい」という声があがり、今年5月から注文に応じ、お弁当を幼稚園に届けるサービスも始めた。ほかに、市内部の学校や病院に通う高校生や高齢者が相乗りできるサービスを20年12月から展開、使用する電気自動車（EV）の電気は太陽光発電と来々



狩猟協同組合の代表者

労働者協同組合法が今月施行

協同労働は、失業対策事業として持った「ワークシェアリング」や、生活クラブ生協が母体となった「ワーカーズ・コレクティブ」や「ワークシェアリング」の活動であった。協同労働のものは、組織電算機を作り、手続を定めて、組合に移す。

協同労働は、失業対策事業として持った「ワークシェアリング」や、生活クラブ生協が母体となった「ワーカーズ・コレクティブ」や「ワークシェアリング」の活動であった。協同労働のものは、組織電算機を作り、手続を定めて、組合に移す。

「地産地消」の仕事組合で協同労働の特徴は、地域で必要な仕事を自分たちで作る、雇われるのではなく、一人ひとりが主体的に働くこと。今月から施行された労働者協同組合法でも、働く人自ら出資し、意見を反映し、事業を共に担うことが明確にされている。

スラ社製の蓄電池でまかなった温室ガスの排出を削減し、カーボンフットプリントを減らす。豊かな海を守る、質の高い教育、低炭素社会。「狩猟版SDGs」を目標に活動する。一方で、自治会

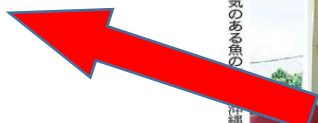
として取り組む限界を感じようになった。すべての住民が事業の恩恵を受けるわけではない。役員もいじめられていない。理解を交わす。この先を事業を続け、広げていくことは、一人ひとりが同じ場所で発言できる組織が作りたい」という思いがあった。千明さんは、お弁当を作るチームのリーダー。幼稚園や高齢者の自宅に配達したり、行事用のオーブンレンジを作った。この「こころ」を、自分たちで話し合ってきた。地産地消も大事にしています。

そうした働き方は、義隆さん目には「二人ひとりが終業者みたい」と映る。「1人ひとりが、それぞれ売れるんじゃないか」と思っていた。それが、お弁当を作る楽しさがある。お弁当を作る楽しさがある。お弁当を作る楽しさがある。

労働者協同組合	株式会社	NPO法人
目的・事業	持続可能な地域社会を実現する事業（労働者派遣事業以外）	特定非常営活動（20分野）
議決権	1人1票	原則1人1票
主な資金調達法	組合員による出資	会費、寄付
配当	従事した程度に応じて	できない

労働者協同組合と他の法人の違い
厚生労働省が作成したパンフレットから

豊漁で(10t)廃棄予定
だった宮古島産みじゅん
1袋1,000円で販売
(5kg)



さらに、下処理して
パック販売(600円)



残りは、冷凍保存し
食材として利活用！



組合員の5分の4以上が働かなければならない。したがって、経営者としての側面が強調され、安易に最低賃金が適用される。組合員の5分の4以上が働かなければならない。したがって、経営者としての側面が強調され、安易に最低賃金が適用される。

宮古島産みじゅん 600円_{200g}
真謝漁港直送11/15深夜獲れたて➡ 11/16配達します



かりまた共働組合『いんぱり』

むすびや：集落センター調理室を活用したお弁当作り



◎ 生活困窮者・ひとり暮らしの高齢者へのお弁当配食

◎ かりまた幼稚園へお弁当配食



むすびや：集落センター調理室を活用した惣菜づくり



◎年越しそば
高齢者などへ出前
好評でした！

◎オードブル →
地域行事や忘・新
年会お正月用など



いんぱり：養殖モズクを6次産業化

新鮮な養殖モズクを生産調整の為「廃棄処分」☹️

➡️ かりまた共働組合が地元宮古島で直売会



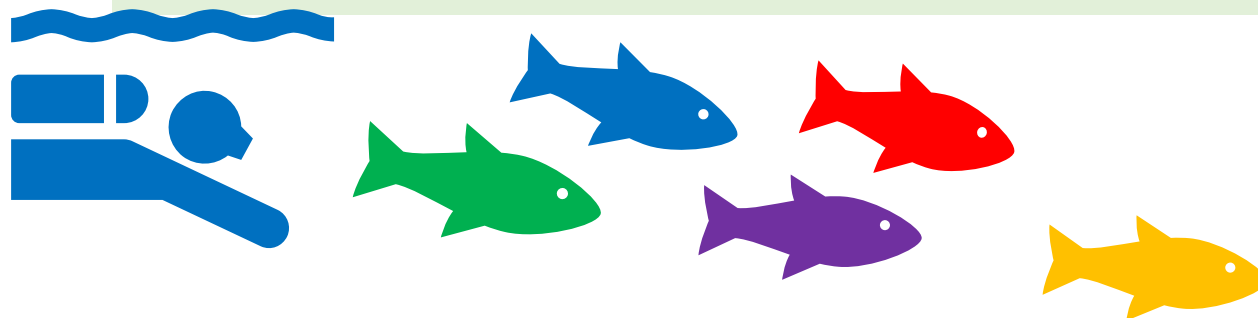
320Kg即日完売！

生産者が直売することで、現金収入と地産地消の販路拡大にもつながり、
ウィンウィン！



かりまた共働組合「いんぱり」の原点

いんぱり：追い込み漁を6次産業化

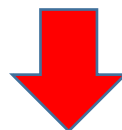


「追い込み漁」新鮮でおいしい魚が売れない…

➡ これまで捨てていた魚を共働組合で買い取り

『魚は食いたいけど家で魚を捌くのが面倒だなあ…』

➡ 共働組合で捌き、から揚げなどにして販売



「生産者」収入増につながり、

「消費者」にも喜ばれる



**ばぎだまチーム
道路清掃
高所作業車を使用
した除草作業**

**ばぎだまチーム
大雨で滞留した泥の
除去作業
ミニユンボ使用**





ばぎだまチーム

**電気自動車で高齢者通院支援・高校生の通学支援
(太陽光クリーンエネルギーを充電し、相乗りする
ことで低炭素社会カーボンニュートラルを実践中)**

事業計画

令和4年度 「むすびや」「いんぱり」「ばぎだま」事業

事業1：配食を中心とした弁当づくり【むすびや】

事業2：狩俣産もずくの販路拡大【いんぱり】

事業3：餅屋システム事業【ばぎだま】

- ・ 経営基盤の確立とルールづくり
- ・ 安定した収入源確保に向けた事業計画

中長期「かりまた共働組合」の安定した組織づくり事業

- ・ 空き家の整備・活用、移住促進（自治会と連携）
- ・ 畑・追い込み漁のビジネス拡大 ・ 人材育成
- ・ 地域課題解決 ・ 体験型企業研修・キャンプ誘致

中期的な事業の方向性

■ 地域をつなぐ6次産業化の推進

- ・ 追い込み漁とモズクを中心に観光とリンクした海事業。農業分野においても組織のメリットを活用し所得の拡大・安定化を図る。

■ 地域課題解決

- ・ 常に地域の将来や課題についてみんなで話をすることを通して、随時発生する地域の課題について対策を考え、取り組んでいく。

■ 空き家・空地の活用、移住促進

- ・ 餅屋システムを活用した住宅関連の事業を行う。
- ・ 「ともに暮らしたい」と思える人を積極的に増やし移住を促す。

狩俣集落センター

狩俣マッチャーズ(支)

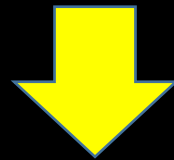
〒 狩俣簡易局

みのる食堂

SHINZATOSUPOTSUCURABU

かりまた共働組合の理念

新しい働き方で
小さな幸せをもっと。



「地域をつなぐ」

ご清聴ありがとうございました。

『たんでいがーたんでい』